総務省統計局 統計調査部長
岩佐 哲也

統計が示す我が国のグランドデザイン
～理工系職員が切り開く未来～

総務省の理工系総合職というキャリア

今、この HP をご覧になっている方は、就職に当たって、国家公務員という職業に興味を持たれた方であろうと思います。いわゆる文系の職業という印象のある国家公務員の中にあって、総務省では理工系の専門性を持った多くの職員がリーダーとして活躍しています。理工系の筋立てた思考力や想像力、ファクトに基づく分析力や数式、プログラムを取り扱う能力は、データ革命や AI の進化など新たな時代への変革期にあって、公務にも特に必要とされる能力となっています。

総務省の理工系総合職職員が活躍する分野は、統計行政を中心に、省内の行政管理、行政評価、情報通信、他府省や国際機関への出向など多岐にわたります。私自身も、総務省では国家公務員の人事行政、内閣府では青少年育成や男女共同参画行政、規制改革など、様々な業務を経験してきました。統計局では、国勢調査や経済センサスといった我が国の基盤となる様々な統計調査を担当してきました。

統計行政のいま

現在、統計行政では、ビッグデータを活用した新指標の開発や統計オープンデータの高度化、データサイエンティストの育成、統計ICTの国際展開など、環境の変化や進化に応じ、様々な取組を進めています。例えば、５年に一度我が国の全世帯を対象として実施される国勢調査は、調査員が70万人を超えるなど最大級の国家プロジェクトであり、オンライン調査環境など基盤となる情報システムも非常に高度なものとなっています。また、結果の集計に当たってはAI技術の活用も進むなど、時代の最先端となる多くの取組が実施されています。

いつの時代にあっても、統計は国家の基礎です。統計がゆがむと、政策がゆがみます。国勢調査の結果がゆがむと、これを基礎として実施される様々な統計調査の精度に影響を及ぼします。また、改定する選挙区の区割りもゆがみ、民主主義がゆがんでしまいます。少子高齢化が本格化するなど国の新たなグランドデザインが求められている時代において、正確な統計データはその重要性を一層増しているのです。

ご関心をお持ちの皆様へ

私は平成２年に国家公務員として採用され、既に30年以上が過ぎました。改めて振り返ってみて、充実した公務員人生を過ごしてきたと思います。総務省の理工系総合職は、各府省の理工系職種のなかでもキャリアパスに非常に恵まれています。また、統計局ではテレワークや、フレックスタイム制など、働きやすい職場環境の整備を率先して進めており、多くの女性職員がリーダーとして活躍しています。

ここでは、皆さんの先輩となる職員から様々なメッセージをお届けしています。それぞれに多彩な業務を経験していますので、何か興味を引く内容があれば、お気軽に連絡をいただければと思います。また、業務説明会やインターンなども行っています。是非参加して知識を深めていただければと思います。

熱意ある皆様と共に総務省で働ける日を心待ちにしています。

著作権・発行／総務省統計局